



2学期開始にあたって

～あたりまえをあたりまえのように 素直な気持ち 感謝 ひたむきな努力～

先日、スーパーに行ったときの出来事です。小学校に入る前ぐらいの2人の姉妹が入り口付近に走り、自分たちの目線より少し高いところに手を伸ばし、家の人に「早く!早く!」と呼び掛けてました。手の先には、アルコール消毒液がありました。子どもたちにとって、新しい生活スタイルが根付いているのだと実感する瞬間でした。

本日、2学期が開始しました。子どもたちの笑顔、元気な声が学校に戻ってきたことを喜んでおります。しかしながら、全国的に新型コロナウイルスの感染が広がりを見せています。学校では、感染拡大防止対策をしながら、新しい生活スタイルのもと教育活動を進めてまいります。また、8月には40℃に迫る猛暑が続き、連日30℃を超える日も続いています。熱中症対策も欠かせません。ご家庭でもご留意ください。

コロナ禍の社会情勢、自肃ムードの夏休み中、明るいニュースがない中、テレビドラマ「半沢直樹」での主人公の半沢の信念、仕事の流儀に、ハッとさせられました。

「一つ、正しいことを正しいと言えること。」
 「一つ、組織の常識と世間の常識が一致していること。」
 「一つ、ひたむきで誠実に働いた者がきちんと評価されること。」

この3つでした。正しいことを正しいというためには、「正しい知識」「正しい判断」「正しい行動」が必要です。学校においては、それらが認められる環境が必要になります。二つ目について、本校の育成を目指す資質・能力は「社会と自分の繋がりを考えながら、学び続ける力」です。社会を意識させながら学ばせるためには、教職員・学校組織と世間の常識と一致していかなければならないことは言うまでもありません。三つ目について、学校は、はじめにコツコツと頑張る児童生徒が認められる場でなければなりません。それをきちんと認めるのは、子ども同士であり、教職員です。あらためて、とても重要なことだと念を押された瞬間でした。

これは私が教諭時代に、子どもたちに言い続けた言葉です。

「当たり前のことを当たり前のようにする。」
 「素直な心で、感謝の気持ちをもって、ひたむきに努力する。」

松下電器（現：パナソニック）を一代で世界的企業に成長させた松下幸之助さんは「素直な心」について、繰り返し話をし、その大切さについて語っていたといいます。松下さんは、素直な気持ちがあれば「雨が降れば傘をさす」ように、当たり前のことが当たり前にできるといいます。しかし、実際の仕事の現場では、素直な心がないために、それができないことが多いと言われていたそうです。素直な心で、ごく当たり前の行動をすることに、発展・成功の秘訣、商売のコツ、経営のコツがあるということです。

自分自身が部活動の指導の際に、生徒や保護者の方から、「どうしたら上手くなるのですか。」「どうしたら勝てるのですか。」と質問され、「当たり前のことを当たり前のようにする。」「素直な心で、感謝の気持ちをもって、ひたむきに努力する。」と答えていました。ドラマ内での半沢の言葉で、あらためて自分自身の信念を再確認しました。

2学期は、84日間学校に登校することになります。子どもたちが、笑顔で元気にいそいそと来られる学校づくりをめざして、一人ひとりに寄り添う関わりを心がけ、学校教育活動を進めたいと思います。

とともに たたかう仲間 ~偏見や差別を生まないために~

「私たちが戦わなければならないのは、ウイルス、病気であって人間ではありません。私たちはともにこの病気と闘っている仲間です。」これは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、インターネット上で患者や家族への誹謗（ひぼう）中傷やデマ情報の書き込みが相次いでいることから、鳥取県の平井伸治知事が述べた言葉です。

「もし感染したらどうしよう」「まだ治す薬がないのに」「この先どこまで広がるのだろう」など、感染に対する不安感も強くなってきています。しかし、この感染症に対する不安や恐れが過剰になり、“新たな感染”が広がっていきます。その感染とは、偏見や差別です。新型コロナウイルスに感染した患者さんやその家族に対する差別、医療関係者やその家族から新型コロナウイルスがうつるのではないかといった根拠のない偏見、インターネットやSNS上のうわさや嘘など誹謗中傷する書き込みなどが実際に起こっています。残念でなりません。

新型コロナウイルス感染症はだれもが感染する可能性があります。感染予防対策をしっかりとしながら、「正しく恐れる」ことが大切です。「適切な不安」は感染から身を守ることにつながります。不安の正体は何なのか、常に心に問いかけ、不安と上手に向き合っていくことが大切です。差別することで不安が解消されるわけではなく、新型コロナウイルス感染症の問題解決にはなりません。私たちに必要なのは、患者さんやその家族の大変さを慮り相手を思いやること、つまり、相手の立場を想像する力です。

学校では、子どもたちに、そのことをしっかりと学ばせたいと考えています。2学期開始式で、「世界中の皆がコロナウイルスとたたかう仲間です。たたかう相手は人間ではありません。だれもが大切にされ、だれもが安心して過せる学校・社会をつくりましょう。」というお話をしました。私たち大人が、不確かな情報に惑わされず、正しい知識をもとに思いやりと想像力をもって物事をとらえる大切さを、自らの言動で示すことも必要だと思います。ご家庭でも、その大切さをお伝えいただければと思います。



部活動について

前期課程

京都市委員会より通知があり、8月24日（月）以降、小学校運動部活動等ガイドラインに基づいて活動が可能となりました。ただし、夏季休業も含めた長期間、体を十分に動かしていないことや、基礎的な体力状況に個人差が生じていることを念頭に置き、本校における活動開始日を決定いたします。正式な活動開始日が決定いたしましたら、改めてお知らせいたします。（今年度の大文字駅伝大会の開催可否については、現在検討中であるという連絡がありました。開催の可否が決定次第お知らせします。）

後期課程

（1）部活動（後期課程）の段階的緩和に係る変更について

7月1日発行の泉だよりNo.5でお知らせしました「部活動（後期課程）の段階的緩和」につきまして、京都府内における新型コロナウイルス感染者数の増加等の状況を踏まえ、当面の間、以下の通り変更することが京都市教育委員会より示されましたので、お知らせいたします。

変更前	変更後
府県をまたぐ活動が認められ、他府県との交流ができます。	原則、府内での活動とし、交流は府内の学校に限ります。
参加者数の制限はありませんが密集等を回避しての活動をします。	参加者を原則100名以下とし、保護者等の応援等は、受付を設置する等して参加者の把握をします。（公式戦は除きます。）
宿泊を伴う活動が認められます。	宿泊を伴う活動は禁止します。

※部活動への参加については、保護者の理解・同意が必要です。また、家庭での十分な健康観察が必要となります。

学校でも引き続き、活動前の検温、活動中の健康観察、感染症対策、熱中症対策を行なながら実施します。

（2）京都市中学校選手権大会代替大会の実施について

8月29日（土）以降、各部の代替大会が行われます。この大会は、9年生にとって最後の大会となります。今まで共に頑張ってきた仲間とともに、それぞれの力を十分に発揮してくれることを願っています。（保護者の皆様の応援を、ご遠慮いただいている競技もあります。大会の詳細は、各部顧問よりお知らせします。）